

平成27年 7 月 22 日

各 位

会社名 株式会社メディビックグループ
 代表者名 代表取締役社長 窪島 肇
 (コード番号 2369：東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 疋田 賢司
 (Tel: 03-5439-9691)

『幹細胞自動培養装置』コンセプト機完成のお知らせ

当社子会社である株式会社アニマルステムセル(以下「アニマル社」という。)は、従来より開発を進めておりました再生医療事業の中心技術となる「幹細胞自動培養装置」のコンセプト機を完成いたしましたのでお知らせいたします。

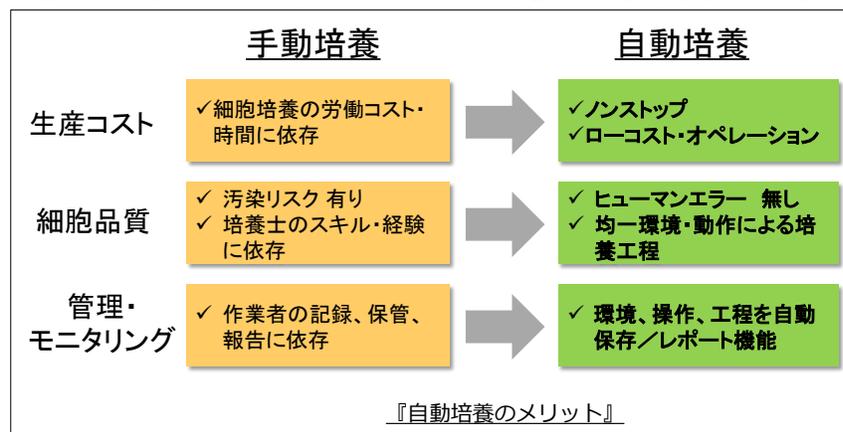
記

1. 開発の概要

アニマル社は、伴侶動物や産業動物における再生医療・幹細胞培養の技術開発をもとに事業を展開しております。平成26年3月17日に新株式を発行致しました第三者割当増資(以下「当該増資」という。)の資金を充当し、幹細胞自動培養装置(以下「本装置」という。)の開発に取り組んできましたが、本装置の「ハード開発」「ソフト開発」「培養容器開発」の基盤技術の実証が平成27年7月17日に完了し、コンセプト機として運用を開始いたしました。今後は、当初資金使徒の通り、ガイドラインや標準化への対応および試験を行ってまいります。

アニマル社では、これまでの人手による細胞の手動培養を自動化することで、生産コストの低減と品質向上および管理・モニタリングを強化するとともに、競走馬や畜産動物など大型動物向けの大量培養や、試験用幹細胞の受託生産を行ってまいります。なお、本装置では、

ヒトの間葉系幹細胞の培養が可能なることも確認しており、今後適用範囲を拡大するとともに、本装置の要素技術については、モジュール化・さらなる小型化により、広く販売すべく引き続き研究・開発を進めてまいります。



2. 装置の概要

本装置は、細胞培養における業務設計や記録・管理を自動化すべく、タブレット端末での簡易オペレーションが可能な設計となっており、ヒューマンエラーのリスクを排除しております。また、市販のインキュベーターや遠心分離機を利用することで、開発・製造コスト減を実現しました。



項目	仕様
サイズ(mm) W×D×H	3750 × 2300 × 2026
重量	1300 Kg
電源	3相 200V
培養環境	装置内部はクラス100 ＝クリーンベンチ内部と同レベル
培養操作	培地交換、継代培養、遠心分離、 スケジュール設定など
培養計画	タブレット端末のスケジューリング機能により 自由に培養工程の設定が可能

『自動培養装置の主な仕様および動作機構』

3. 今後の見通し

今後アニマル社は、本装置の技術を用いた再生医療事業の受託研究・開発、装置・消耗品の販売に向けた事業組織の構築を行い、中長期的に当社グループの業績の向上に寄与するものと考えておりますが、現状において収益が計上される時期は未確定であることから、平成27年12月期の業績に与える影響は現在においては未定であります。今後、個別の事業展開の進捗に応じて、適宜開示してまいります。

以上